

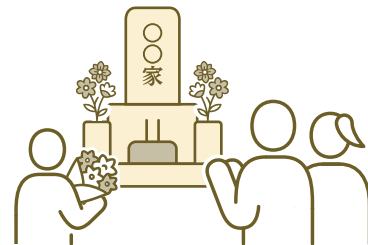
はじめてのお墓さがし ～畏敬の念と家族への思いやり～

MUFGシニアライフ研究所 主任研究員 たていし 立石 たけし 猛



先月、息子の結婚の報告を兼ねて、義父母が眠るお墓に手を合わせてきたのですが、帰り道、ふといくつかの疑問が頭をよぎりました。

- ・義父は、何歳の頃にお墓の準備をしたのだろうか。
- ・妻は、お墓についてどのように考えているのだろうか。
- ・そして、子どもたちは将来、お墓参りに来てくれるのだろうか。



私は二男ですが、家制度の慣習に重きを置く父の考えにならうとすると、自分のお墓は自分で用意する立場にあります。とはいえ、これまで具体的に考えたことはなく、思い立ったが吉日とばかりに、まずは家族の意見を聞くことから始めてみました。

内閣府の調査によると、60歳以上の男女が「今後の生活の中で準備しているもの」として最も多いのは「身の回りの整理」、次いで「お墓の準備」「葬儀の準備」と続きます。また、お墓の準備を進めている年齢層は、男女ともに75歳以上から増えていく傾向^{*1}にありますが、民間の会社による調査の中には40～60代でもお墓を購入している結果^{*2}もあり、現在私は58歳ですが、年齢的に早過ぎるということでもないようです。

近年、お墓の事情は大きく変化しています。少子化や核家族化を背景に、お墓の承継者や管理負担といった問題が顕在化し、従来主流であった一般墓の他に、納骨堂、合祀墓・合葬墓、樹木葬、散骨といった多様な選択肢が広がっています^{*3}。

お墓の種類(ご参考)

一般墓	墓地に区画を設けて設置する墓石型のお墓
納骨堂	主に室内にある棚式やロッカー式のお墓
合祀墓・合葬墓	複数の遺骨をひとつのお墓に埋葬し、その墓所の管理、運営者が遺族に代わって永代にわたって供養をするお墓
樹木葬	墓域内を樹木や草花で飾ったお墓(自然葬、樹林墓地なども含む)
散骨	遺骨を粉末にして山や海などへ撒く「自然葬」のひとつ

次ページへつづく ▶

また、改葬・墓じまいといった既存のお墓を整理し、管理のしやすい形へ移行する動きも年々増えています。その理由の多くは「承継者がいない」「遠方で管理が難しい」といった現実的な事情です※4。こうした点は、これからお墓を選ぶ際にも押さえておきたい重要な視点と感じます。

改めて思い返すと、義父母のお墓には義父の兄夫婦も一緒に眠っていて、墓石には家名ではなく「和」の一文字が刻まれています。生前から仲の良かった兄弟が共同で墓地を購入したと聞いていますが、それは単なる絆や縁の深さだけでなく、将来の管理や承継を見据えた選択でもあったのかもしれません。亡くなった後もなお、教えを受けているような気持ちになります。

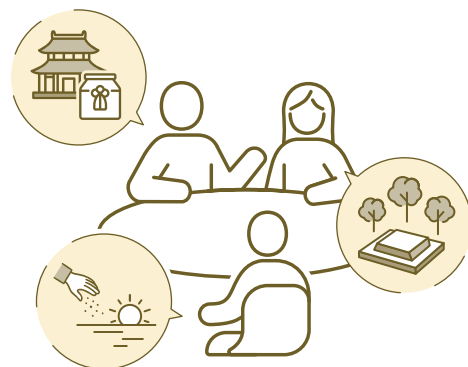


今はインターネットを通じて、希望する場所に依じてお墓の種類や費用を簡単に調べることができます。情報の収集にはとても便利でしたが、あまり手を広げすぎると、多くの業者から連絡が入ることとなりますので、しっかりと情報の取捨選択をした方がよいと思います。

お墓さがしを始めたばかりの今、明確な結論はまだ出ていませんが、今回の経験を通じて強く感じたのは、家族と率直に話し合えたことの大切さです。妻との考え方の違いや子どもたちの思いを確認することができ、貴重な機会になったと実感しています。妻や子どもたちが、まだ「遠い先の話」として受け止められる時期だったからこそ、気負いなく本音を交わせたように思います。

子どもの頃、夏休みの宿題はいつも最後に回してしまう追い込み型でしたが、今回のお墓さがしについては、どうやら良いスタートが切れたようです。

お墓は、単なる「場所」ではなく、家族のこれからを考えるためのテーマでもあります。お墓さがしとは、ご先祖への畏敬の念を形にするとともに、子や孫へ負担を残さないための思いやりを考える機会なのかもしれません。



※1 内閣府「高齢社会対策総合調査」令和6年度を参考

※2.3.4 株式会社鎌倉新書「第17回 お墓の消費者全国実態調査(2026年)」等を参考